

設問一 次の四字熟語の空欄□に入る漢字を後の選択肢からひとつずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1 当意□妙 | 2 荒□無稽 | 3 面目靡□ |
| 4 直情□行 | 5 金科□条 | 6 馬耳□風 |

選択肢 ア 如 イ 徑 ウ 唐 エ 東 オ 即 カ 玉

設問二 次の意味を表すことわざ・慣用句を、後の選択肢から選び、記号で答えなさい。

- 1 時機に遅れて役に立たないことのととえ。
- 2 好都合なことが重なり、物事が思うままに進むたとえ。
- 3 弟子がその師よりもすぐれていること。
- 4 年をとったのに目的はまだなかなか達せられないことのととえ。
- 5 人の世の栄枯盛衰のはかないことのととえ。
- 6 得難い機会だから、好機を逸してはならない。
- 7 行き詰まってもどうにもならないところまで来ると、案外打開の道があつて、何とかなるものである。
- 8 若い時に身についた習性は年をとっても変わらない。

選択肢 ア 日暮れて遠遠し イ 窮すれば通ず ウ 流れに棹さず
 エ 奇貨居くべし オ 六日の膏肓 カ 雀目まで踊り忘れず
 キ 出藍の青れ ク 廬生の夢

設問三 次の文章を読んで後の問に答えなさい。

ブロンボス洞窟は、南アフリカのケープタウンから三〇〇キロメートルほど東の地点、インド洋の荒波が押し寄せる海岸に面した崖に開口している。この土地で生まれ育ち、現在ノルウエーのベルゲン大学に所属するクリス・ベンシルウッドは、少年だったころから洞窟の存在を知っていたが、もちろん当時は、四〇年以上後になって自分がこの洞窟のおかげで名声を得ることになるとは、夢にも思っていなかった。何しろこの洞窟は地味で、崖に空いていた入口は、這いつくばってようやく一人が入れるほどのものでしかなかった。そこに世界を驚かせる遺物が眠っているなどと、誰が想像できよう。ケープタウン大学とケンブリッジ大学で考古学を学んだベンシルウッドは、一九九一年に洞窟の試掘をはじめた。時間をかけて、シンチヨウに進められた発掘は、いくつもの大きな成果を産むことになる。

二〇〇二年、アメリカの科学雑誌『サイエンス』に、注目すべき一つの論文が掲載された。ベンシルウッドらの発掘調査隊による報告で、ブロンボス洞窟の七万五〇〇〇年前（発表当時の報告では七万七〇〇〇年前）の地層から、赤色オーカー（ベンガラ）の塊が八〇〇〇点以上出土し、その中の二つに、明らかに人が刻んだ、ギカガク模様が発見されたというのである。オーカーは自然界に存在する代表的な顔料で、先史時代から世界各地で絵の具や塗料として利用されている。模様は、斜めの格子パターンが連続しているもので、どうやら石器で刻ま

れたらしい。

これまでも、五万年以上前の線刻とされる遺物は、ヨーロッパ、アジア、アフリカから様々に報告されている。しかし、最近ボルドー大学のフランチェスコ・デリコらが^④精査した結果によれば、こうした遺物の多くは、人工的なものではないようだ。例えば、ネアンデルタール人の遺跡であるウクライナのモルドヴァー遺跡からは、三〇〇点にのぼる骨片に^⑤シンイテギな加工痕が見られると報告された。しかし少なくともその大多数が、実際には骨の表面に最初から存在する脈管の圧痕であったり、ハイエナなどの肉食獣による傷や、土に埋もれた後に偶然ついた傷、さらに発掘の際に不注意につけられた傷などであることがわかった。

一方、^⑥人工物の可能性のある、五万年以上前の線刻もわずかにある。しかしその線刻のパターンは、ブロンボスの例のように明確なものではない。一〇万年前のホモ・サピエンス化石の出土で有名な、イスラエルのカフゼー遺跡からは、線刻のある石のかけらと穴が開けられオーカーで着色された貝が、墓に伴って出土したと報告されている。石は、石器製作に用いられたフリントという岩石の風化した皮質の部分である。いくつかの溝はカーブを描いており、大型の動物に踏みつけられてできた傷、肉食獣の噛んだ跡、人間が動物を解体したときに偶然つけた傷のどれでもなさそうだ。従って、人間が意図的に刻んだ線である可能性があるが、そこには明確な模様としてのパターンがない。同じような刻みのある石の破片は、やはりイスラエルのクネイトラ遺跡からも出土しているが、こちらの年代は五万年前である。

人間が制作した彫刻かもしれないとしてしばしば引用される例に、シリアのイスラエル国境に近いゴラン高原にある、^⑦バレバラム遺跡の「彫像」がある。これは、部分的に彫刻された人物像とされる玄武岩質の火山^⑧で、報告によれば一八万―二五万年前のものである。直径二・五センチほどの礫を一周する刻み目があり、これが人の首の部分のように見えるのである。^⑨グンビギョウ観察と同質の石を石器で加工する実験からは、これらの刻み込みが、実際に人間の手で行なわれた可能性が^⑩示された。それでも、これが果たして本当に人物像もしくは何らかの彫像なのか、なお判断が難しい。ほかに類例が出てくるまでは、バレバラムの遺物が「彫像」なのか、特に意図せず作られたものなのか、何とも言えない。

ブロンボス洞窟で見つかった模様は、単純ではあるが、いくつもの連続した斜めの格子模様で構成されており、自然の産物ではありえないだけでなく、明確なパターンをもつ。しかもこのオーカー塊の模様が刻まれた面は、平らにするために磨かれている。このオーカー塊は石のように硬いため、磨いて平面を作るにはそれなりの時間と労力がかかったはずだ。どう考えても偶然ではなく、^⑪人間が「こういうものを作りたい」と意図して刻んだ模様なのである。しかもブロンボスからは、同様の模様のあるオーカー塊が、もう一点見つかっているほか、刻み目のある骨片も発見されている。

さらに報告された年代も、信頼性が高い。この遺跡の堆積層は、一四万―七万五〇〇〇年前のMSAの地層と、二〇〇〇年前より新しいLSAの地層からなり、両者の間は、文化遺物を含まない、つまり人間の生活^⑫痕跡のない厚さ一〇センチほどの砂の層で隔てられている。光励起ルミネッセンス(OSL)法で測定されたこの砂層の年代、出土したスタイル・ベイトと呼ばれる石器、堆積物から推定される海岸との位置関係など、複数の要素が整合して、MSAの最上部の地層が七万五〇〇〇年前のものであることを示している。

つまりブロンボスから発見されたのは、世界最古の、確かな抽象模様なのである。考古学者たちは、長い間、人が意図して製作した古い造形を探し求めていた。そしてそれが、現生人類のアフリカ起源説の予測と一致する場所、つまりアフリカ大陸の中から、ついに発見されたのである。

それにしても、このようにただの模様の発見が、なぜそれほど重要なのだろうか。模様を描くという行動はホモ・サピエンスのような新しい能力を反映しているのだろうか。

おそらく多くの読者が思い浮かべるのは、これが原始的な芸術と言えるかどうか、という疑問であろう。確かにこのような表現は、芸術に通じるものなのかもしれない。芸術は、世界のどの現代人集団にも普遍的なものであるから、芸術を生み出す私たちの能力は、アフリカの共通祖先の時点で、すでに存在していたはずだ。しかし、七万五〇〇〇年前の人々に直接聞いてみない限り、模様が刻まれた本当の意図を私たちが知ることはできない。従って、この世界最古の模様を芸術の発展史の中に位置づけることは、極めて難しい課題である。

最近の研究者たちは、芸術の起源うんぬんを問うより、「こうした遺物は何らかのシンボルである」という視点からものを考えようとしている。シンボルを用いる（象徴化する）とは、個人が頭の中に思い描いている特定の出来事や概念を、絵や記号や音声といった、何らかの創作されたシンボルに託して表わすことである。

チンペンジーでも、教えれば、ある記号がリンゴに対応することを覚えることができる。京都大学霊長類研究所で育ったアイという名のチンペンジーは、数字の大小の概念をも理解している。しかしチンペンジーと言っても、新たなシンボルを自ら創作するとはしない。あるシンボルがある事象に対応すること（例えば果実の色からどれだけ熟しているかわかるなど）を理解するということと、ある事象を表現するためにシンボルを創るという行為は、全く次元の異なるものと考えられる。Aには、事物を概念化し抽象化するという高度な作業が伴うからである。

現在の多くの研究者たちは、遺跡で見つかる絵、抽象模様、彫刻、個人がつけるアクセサリーといった遺物を、シンボルを用いる行動が存在した証拠と見なしている。こうしたものには、たいていの場合、見る人への何らかのメッセージが込められているからだ。そして研究者の間では、ホモ・サピエンスにおいてシンボルを用いる行動が進化したことが、人類史の大きなブレイクポイントになったという認識が広まってきた。なぜならこれによって、他者へ伝えることのできる情報量が飛躍的に増すからだ。

個人の記憶や概念をシンボルに置き換え、個人の脳の外に出すことにより、これを保存し、仲間と共有し、次世代に伝えていくことができる。シンボルを用いて知識を伝達すれば、現場での直接体験がなくても、多くのことを学べるようになる。よく考えてみれば、私たちが用いている言語も、シンボルを用いる能力の上に成り立っている。もちろん、今あなたが目で追っている文字もそうである。私たちの社会が文字を必要とするほど複雑化したのは、かなり後の時代のことであるが、私たちが話しているような複雑な言語は、シンボルの操作能力の進化とともに現れたというのが、最近の研究者たちの一般的な見方だ。そしてこの能力さえあれば、文字の利用はいつでも可能であつたと考えられる——現代においても文字を使えない人々がいるが、それは教育の問題であることは、私たちの誰もが知っている——。つまり文字の発明自体は、知的能力の進化によるものではない。おそらくBこそが、重要であつたのである。

こう整理すると何となくわかつてくると思うのだが、シンボルを自由に操る能力に基づいた知識伝達の力は、はかりしれない。現在に至る私たちの文化の爆発的な発展は、間違いなくこの能力に基づく高度な情報伝達によって下支えされた。

アロンボスの七万五〇〇〇年前の模様には、何らかの——何とはわからないが——意味が込められていたと、発掘者のベンシルワットらは考えている。この考えが正しければ、七万五〇〇〇年前の祖先たちには、私たち現代人のようにシンボルを自由に操作する能力があつた可能性が浮かび上がってくる。そして彼らは、言葉や図像を用いてあらゆる知識を子世代に継承する行為を、すでにはじめていたのかもしれない。彼らの文化はまだ文

字を必要とするほど複雑なものではなかったが、そのような行為は、彼らをそれ以前の人類とは違うレベルで繁栄させ、やがては子孫たちが世界中へ拡大するまでの『成功に導く基礎』となったのだろう。

ブロンボス洞窟からは、今のところ遡した四点の歯を除き、人骨は見つかっていない。そしてこれらの歯だけから、洞窟の住人たちの素性を知することは、残念ながら不可能である。しかしアフリカのほかの遺跡証拠から見て、この洞窟を利用していたのがホモ・サピエンスであったことは、まず間違いないと考えられる。

〔海部陽介『人類がたどってきた道 “文化の多様化”の起源を探る』第3章「ブロンボス洞窟の衝撃 アフリカで何が起ったのか」、日本放送出版協会 二〇〇五年。一部文章を改めた〕

問一 二重傍線部①と②について、漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字で書きなさい。

問二 傍線部 (i) 「赤色オーカー (べんガラ)」とは何か、文中の語で答えなさい。

問三 傍線部 (ii) 「人工物の可能性のある、五万年以上前の線刻」が、人工物であると断定できない理由が説明されている箇所を文中から十文字で抜き出さない。

問四 傍線部 (iii) 「ブレバラム遺跡の『彫像』」について、「彫像」が強調されている理由として最も適切なものをひとつ選びなさい。

- 1 直径三・五センチほどのもので小さすぎるから。
- 2 他の遺物に比して、あまりにも古いものだから。
- 3 人工物が否かを判断するための類例がないから。
- 4 芸術的な彫像というにはあまりにも稚拙だから。

問五 傍線部 (iv) 「人間がこういうものを作りたいと意図して刻んだ模様」であると言える理由として最も適切なものをひとつ選びなさい。

- 1 平らな面を選択して、単純なパターンで刻まれているから。
- 2 同じ遺跡から同様の模様が刻まれた骨片が発見されたから。
- 3 偶然の産物とは思えないほどパターンが明確な模様だから。
- 4 平らに磨かれた面に、明確なパターンで刻まれているから。

問六 傍線部 (v) 「このようなただの模様の発見が、なぜそれほど重要なのだろうか」という問いに対する結論を、できるだけ文中の語を用いて六十文字以内で答えなさい。

問七 傍線部 (vi) 「極めて難しい」理由として最も適切なものをひとつ選びなさい。

- 1 原始的な模様のため、芸術であると言いがたいから。
- 2 模様が刻まれた本当の意図を知ることできないから。
- 3 芸術は普遍的なもので原始的だとは評価できないから。
- 4 本当に世界最古のものか否かは今後の調査によるから。

問八 空欄 A に入る語としてふさわしいものをひとつ選びなさい。

- 1 前者
- 2 後者
- 3 理解
- 4 表現

問九 空欄 B に入る語句を文中から十二字で抜き出さない。

問十 傍線部 (四) 「成功に導く基礎」となったものは何か、最も適切なものをひとつ選びなさい。

- 1 あらゆる知識を子に世代に継承すること。
- 2 複雑な言語や文字を発明して利用すること。
- 3 シンボルと事象との対応を理解すること。
- 4 事象を表現するためにシンボルを創ること。